



The Heart of Industry

## 2023年3月期 決算説明資料

2023年5月12日

**株式会社イワキ** 証券コード：6237  
銘柄名：イワキポンプ



ウォルケムコントローラ Intuition-9™

製品説明：高性能センサ機能、測器、液体処理、各種データ通信技術を

1台にすべて集約した水処理用コントローラ

<b>I . 2023年3月期 決算概要</b>	<b>・・・P 3</b>
<b>II . 2024年3月期 業績見通し</b>	<b>・・・P 15</b>
<b>III . 収穫期 中期経営計画について</b>	<b>・・・P 24</b>
<b>IV . Appendix</b>	<b>・・・P 29</b>

# I . 2023年3月期 決算概要

売上高は上場来最高額を記録。中国連結子会社に関する特別利益も影響し、最終利益は大幅増益。

	2022.3期		2023.3期	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
売上高	32,439	37,730	5,290	+16.3%
売上総利益 (売上総利益率)	11,029 (34.0%)	12,923 (34.3%)	1,894	+17.2%
営業利益 (営業利益率)	2,139 (6.6%)	2,443 (6.5%)	303	+14.2%
経常利益	2,992	3,933	941	+31.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,396	4,398	2,001	+83.5%
1株当たり当期純利益	109.37 円	200.35 円	90.98 円	+83.2%
自己資本当期純利益率 (ROE)	10.1%	16.3%	—	(+6.2pt)
投下資本利益率 (ROIC)	6.6%	7.4%	—	(+0.9pt)
為替レート (期中平均)	ドル	109.90 円	131.64 円	
	ユーロ	129.91 円	138.15 円	
	香港ドル	—	18.08 円	
	中国人民幣元	—	19.86 円	

### 1 売上高：水処理、半導体・液晶向けが牽引。中国子会社連結効果、円安も寄与し、前年比+16.3%。

- ✓4Q会計期間売上高10,603百万円、同期間売上高100億円超は上場来初。
- ✓通期売上高では、新エネルギー向けを除く全市場で上場来最高額を記録。
- ✓2023年3月期 新規連結子会社（イワキ香港G、イワキ上海）の売上高影響は1,315百万円（連結調整前）。  
※2社ともに4QよりPL連結取込み。
- ✓売上高におけるドル・ユーロの為替影響（前年比）は+1,350百万円。

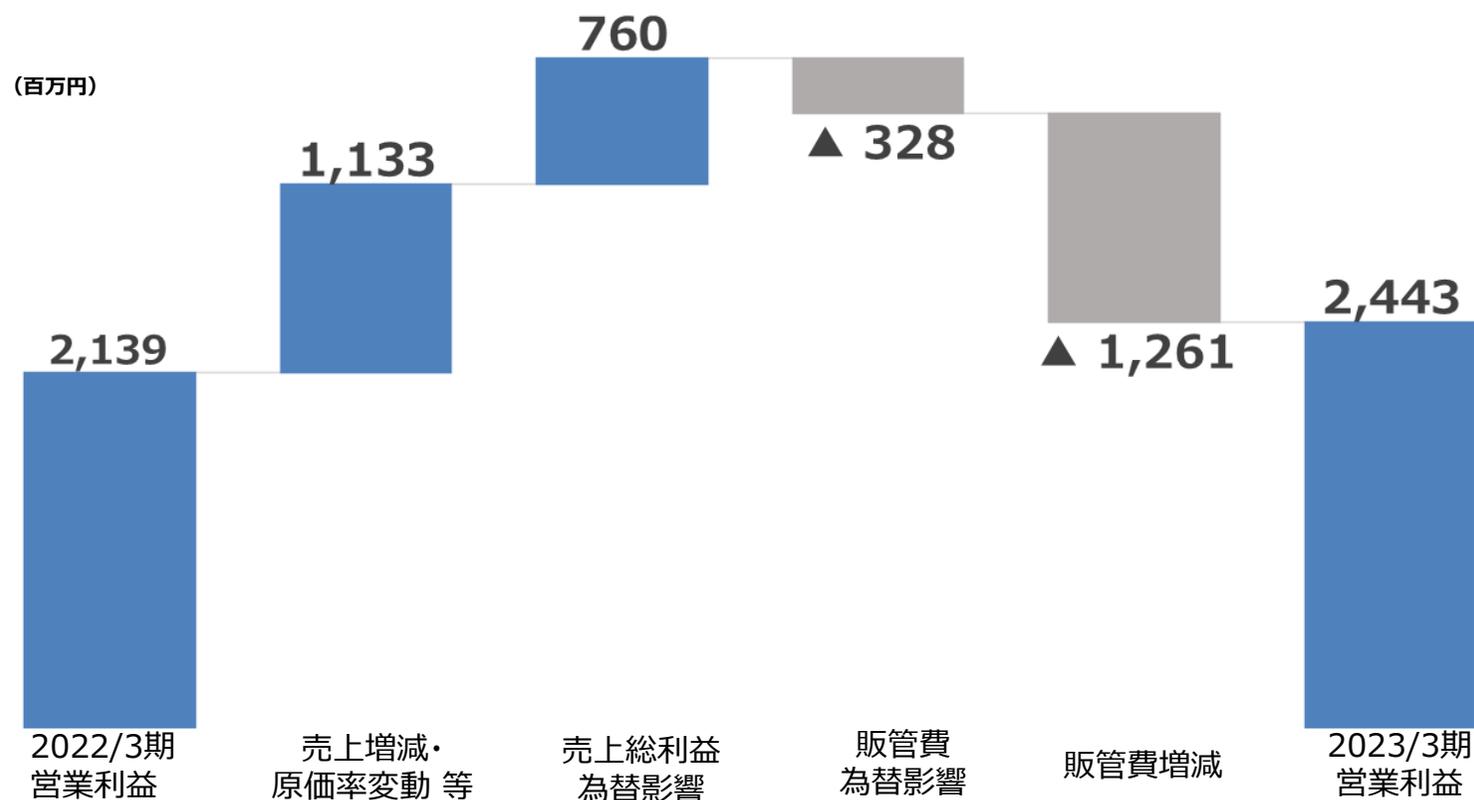
### 2 営業利益：増収効果の一方、セールスマックスや物流関連費用、賞与増などにより売上原価増加、各種営業費用、役員・従業員賞与、のれん償却費などの販管費増加により、前年比+14.2%。

- ✓空気駆動ポンプの売上伸長や、物流外部委託費用や賞与をはじめとした製造経費人件費などの増加により、増収による売上原価率改善は若干にとどまり、売上総利益は前年比+17.2%となる。
- ✓旅費交通費や海外展示会費用、賞与をはじめとした人件費、のれん償却費などの販管費が増加。
- ✓新規連結子会社のPL連結取込みによる営業利益影響額は414百万円（連結調整前）。
- ✓営業利益におけるドル・ユーロの為替影響（前年比）は+432百万円。

### 3 親会社株主に帰属する当期純利益：受取還付金や段階取得に係る差益計上により最終利益は大幅増益。

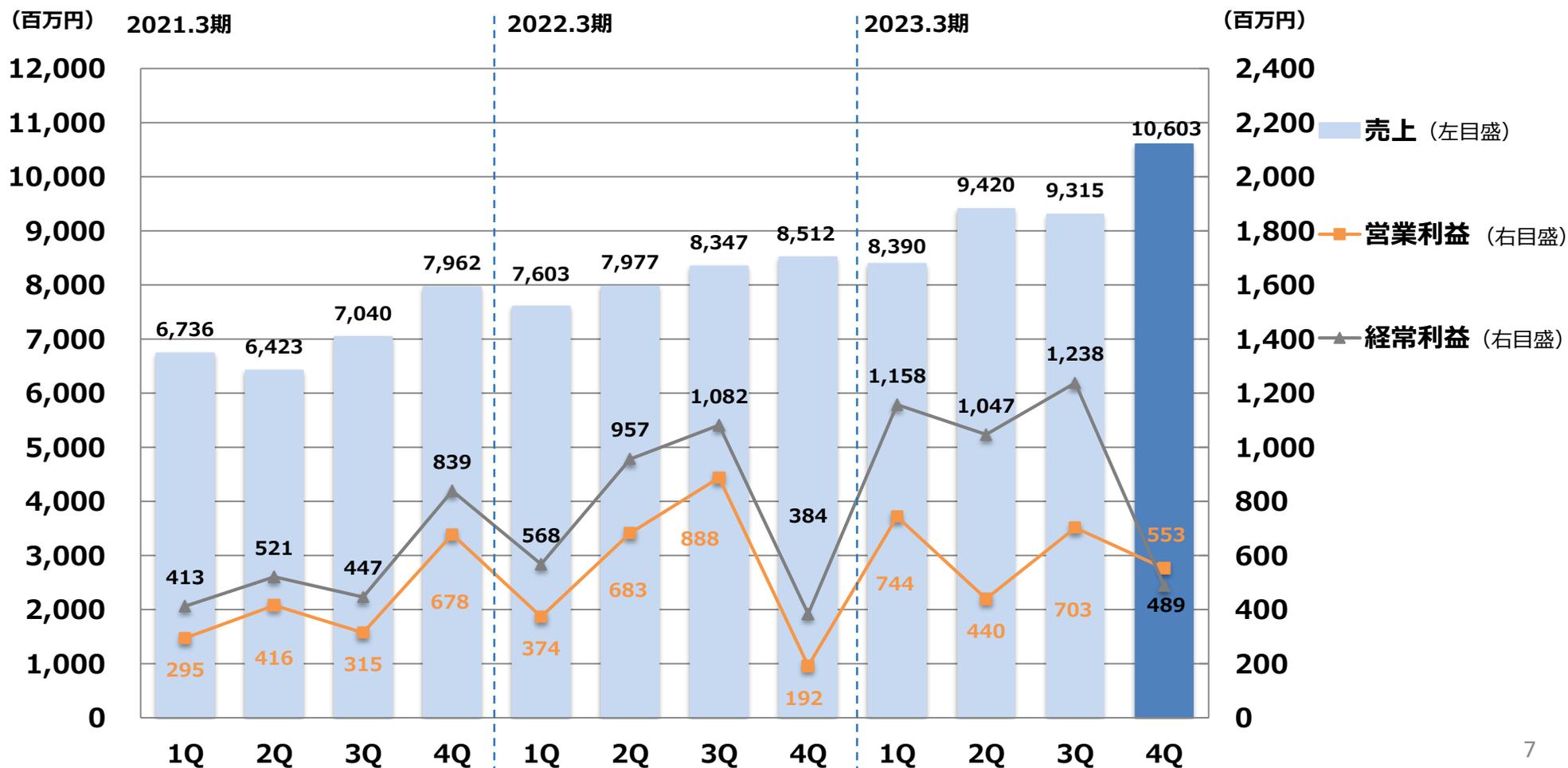
- ✓台湾、韓国を中心に持分法による投資利益増加。全体では前年比+219百万円。
- ✓米国子会社でコロナ禍での雇用維持に関する受取還付金334百万円発生。
- ✓イワキ香港G、イワキ上海の連結子会社化による段階取得に係る差益1,227百万円発生。

為替 1 円当たりの感応度	USDドル	ユーロ
売上	63 百万円	21 百万円
営業利益	18 百万円	8 百万円



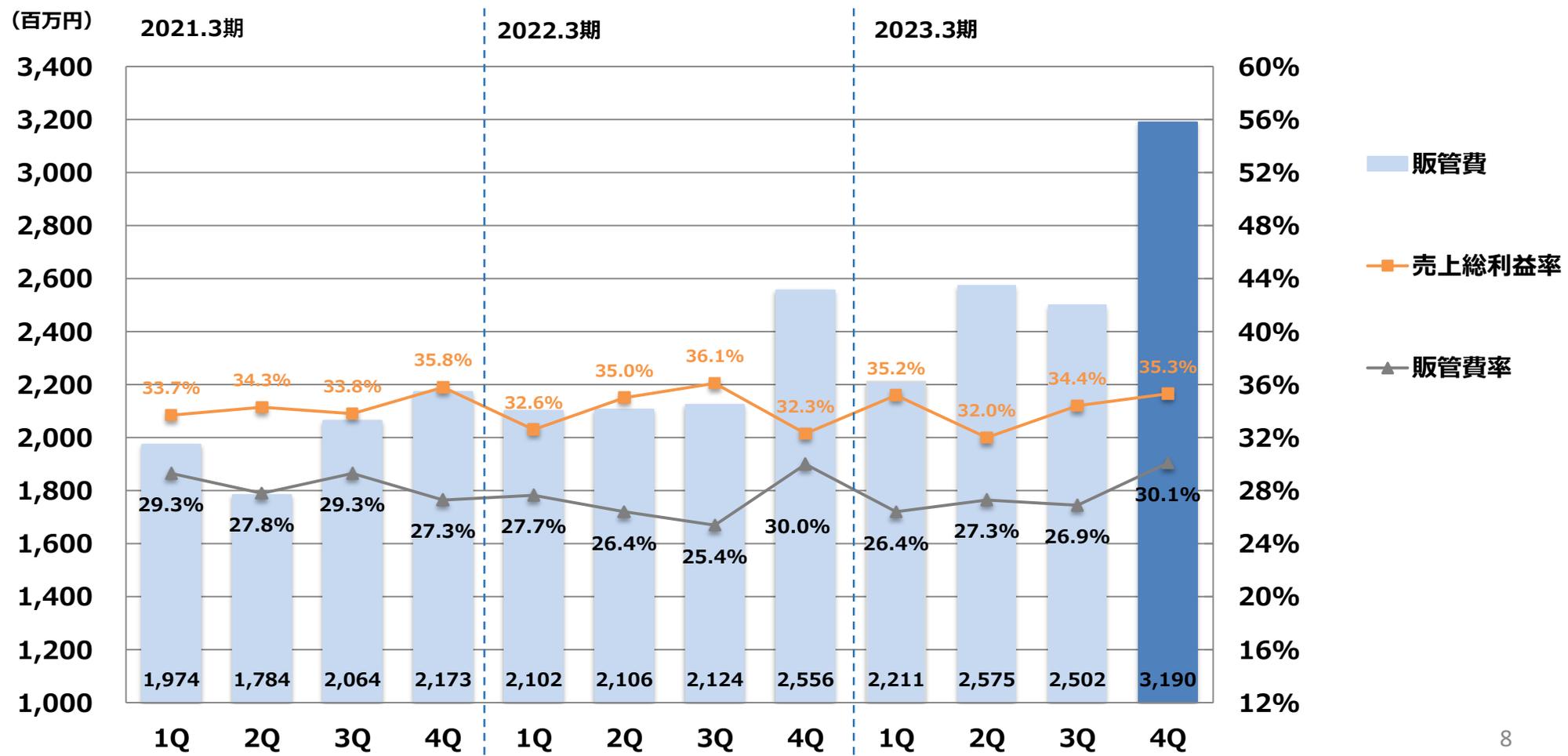
## 4 売上高・営業利益の推移（四半期ベース）

4Q会計期間売上高は上場来初の100億円台記録の一方、業績連動による役員賞与増額分の計上や新規連結子会社のれん償却費発生などにより、4Q営業利益は低水準にとどまる。同連結子会社分の持分法利益の剥落や為替差益減少、受取還付金の反動減により4Q経常利益減少。



# 5 売上総利益率・販管費（率）の推移（四半期ベース）

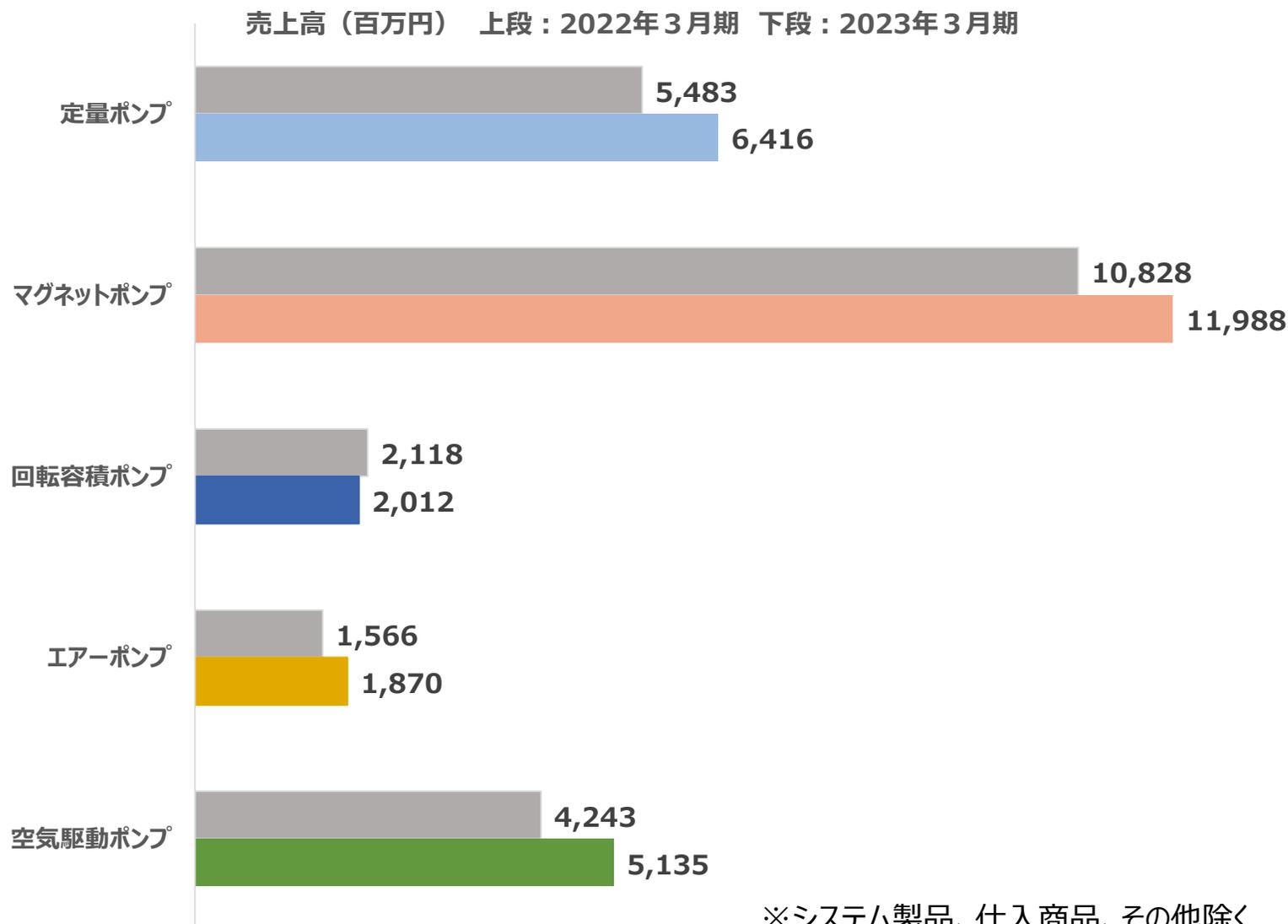
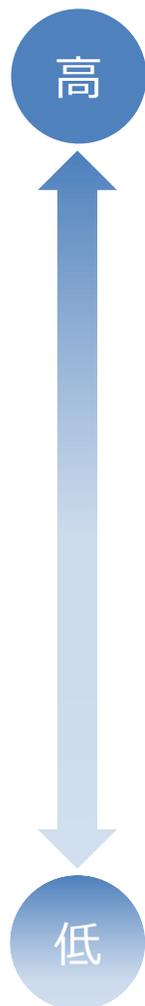
業績連動による役員賞与増額分の計上や新規連結子会社のP L 連結取込み、同連結子会社のれん償却費発生などにより販管費が大幅増加。



マルチ市場 への販売	主なポンプ 用途	マグネット ポンプ 	定量ポンプ 	空気駆動 ポンプ 	回転容積 ポンプ 	エアー ポンプ 	システム 製品 
半導体・ 液晶市場	半導体製造装置 他	●	○	●			○
医療機器市場	人工透析装置 臨床分析装置 他	○	○		●	●	○
表面処理装置 市場	プリント基板製造装置 電子部品製造 他	●	○				○
化学市場	化学薬液製造 他	●	○		○		○
水処理市場	浄水場 排水処理場 クーリングタワー 他	○	●		○	○	○
新エネルギー 市場	再生可能エネルギー 二次電池製造 他	○	○		●		○
その他 (食品・製紙等)	食品洗浄 各種冷却用途 他	○	○		●	○	○

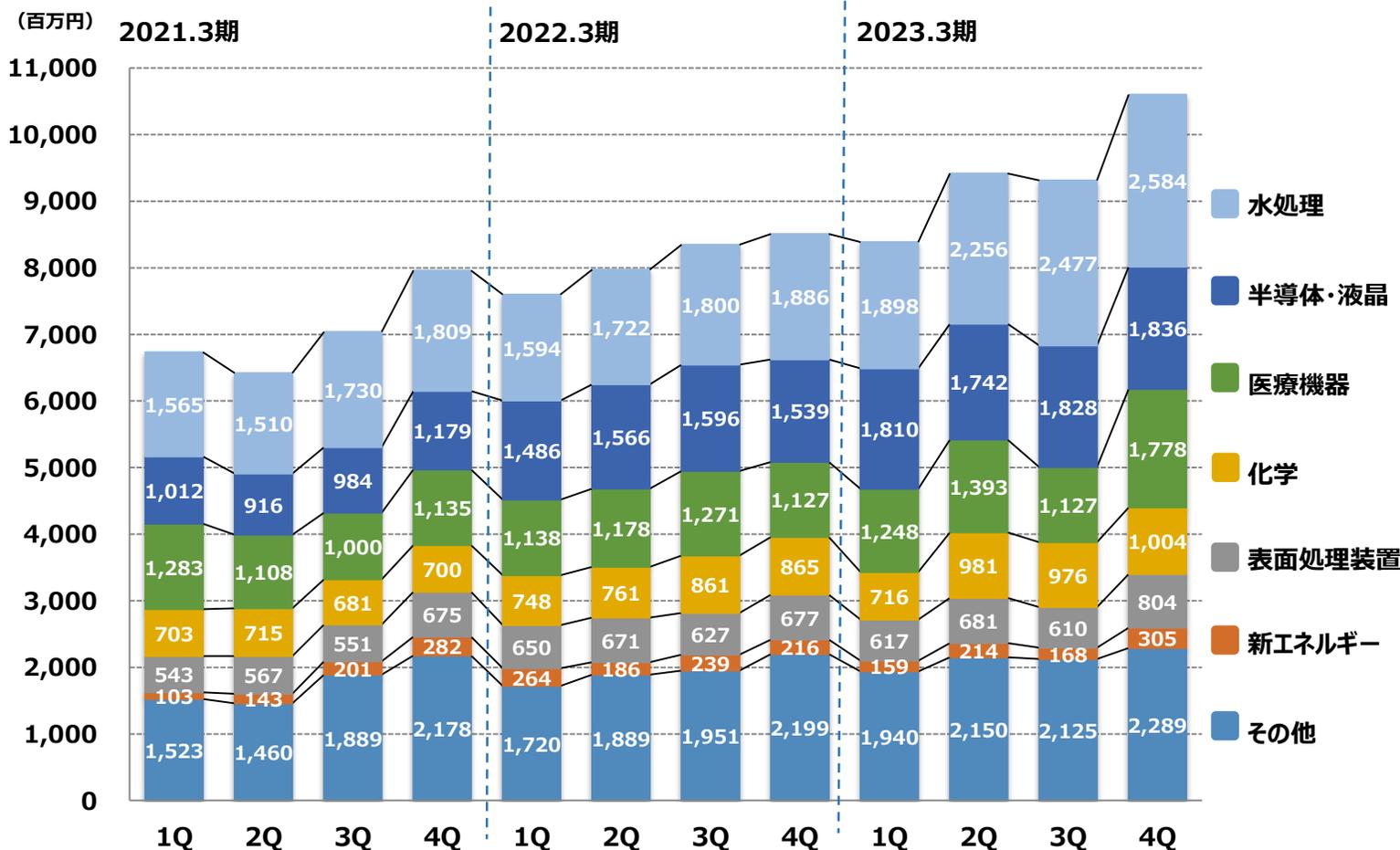
※ 塗りつぶし：各市場におけるメインポンプ

収益性の高・低



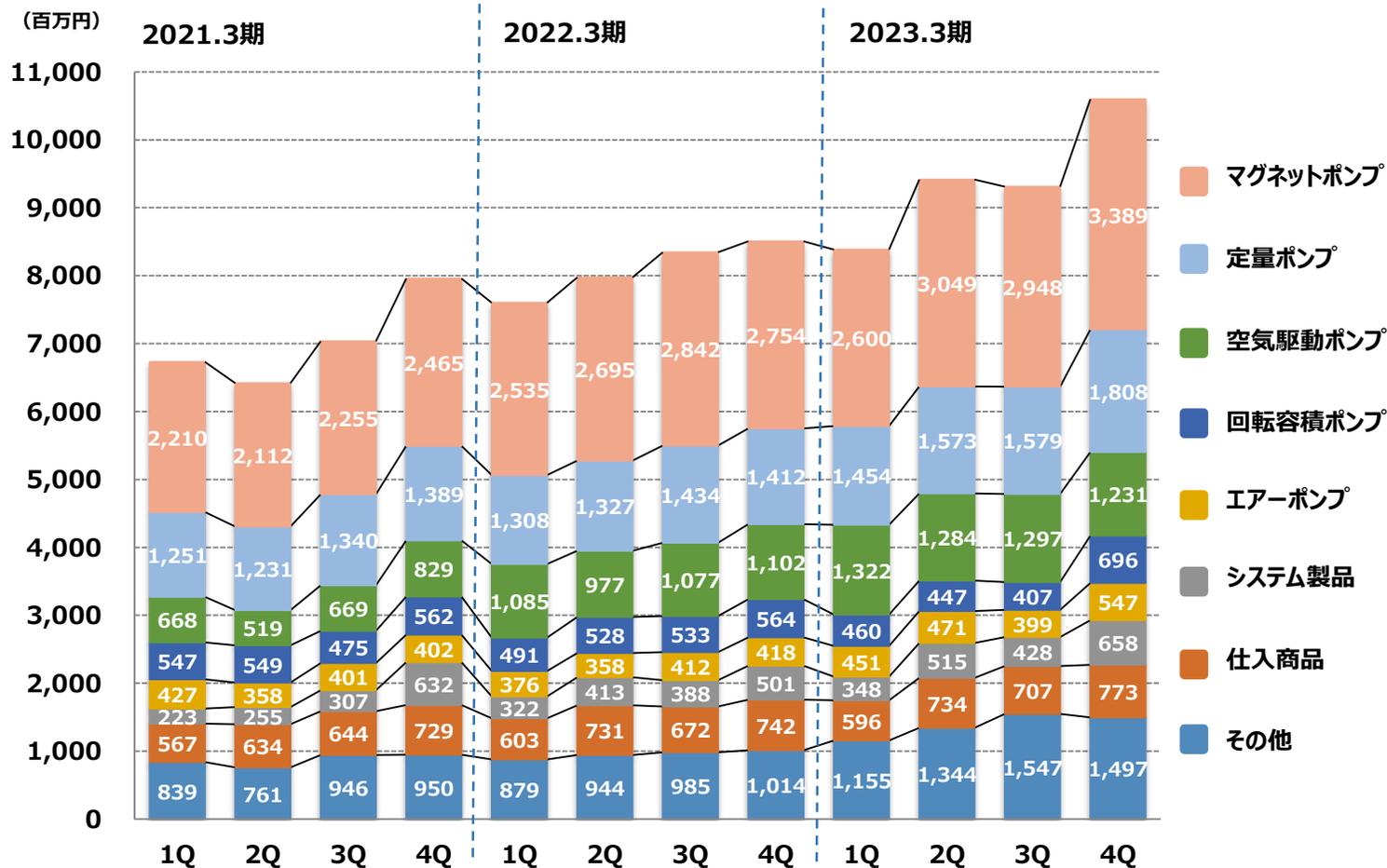
※システム製品、仕入商品、その他除く

水処理向け好調継続。米国水処理向けは円安による為替影響も後押しとなり、米国水処理向け通期売上高の前年比は+1,897百万円となる。半導体・液晶向けも高水準を維持。新規連結子会社のP L 連結取込みにより医療機器向け通期売上高も伸長。



	2023.3期 累計金額 (百万円)	前年差額 (百万円)	増減率 (前年比)
水処理	9,217	2,213	+31.6%
半導体・液晶	7,217	1,028	+16.6%
医療機器	5,547	832	+17.6%
化学	3,678	441	+13.6%
表面処理装置	2,714	88	+3.4%
新エネルギー	847	▲59	▲6.6%
その他	8,506	746	+9.6%

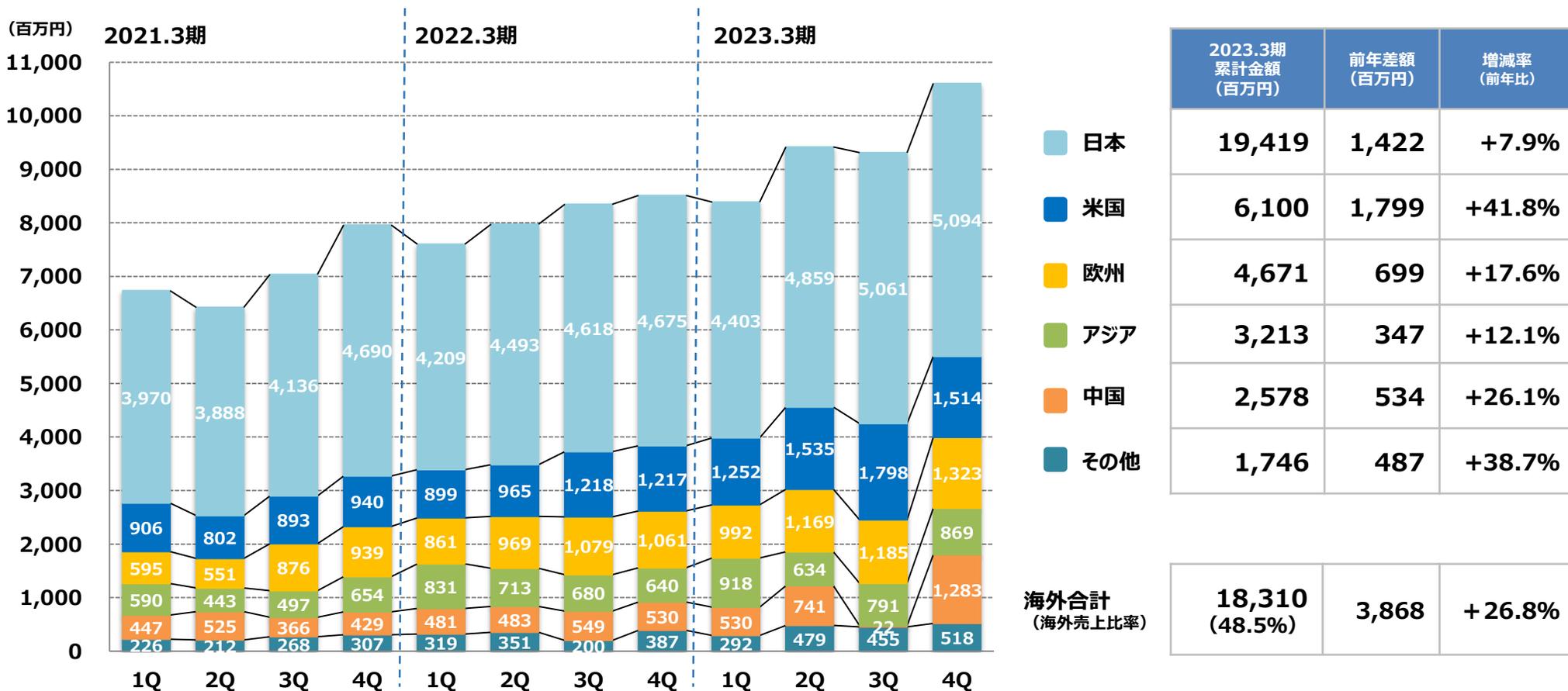
回転容積ポンプを除き、それぞれ上場来最高額となる通期売上高を記録。  
主力製品であるマグネットポンプ、定量ポンプも二桁増と好調に推移。



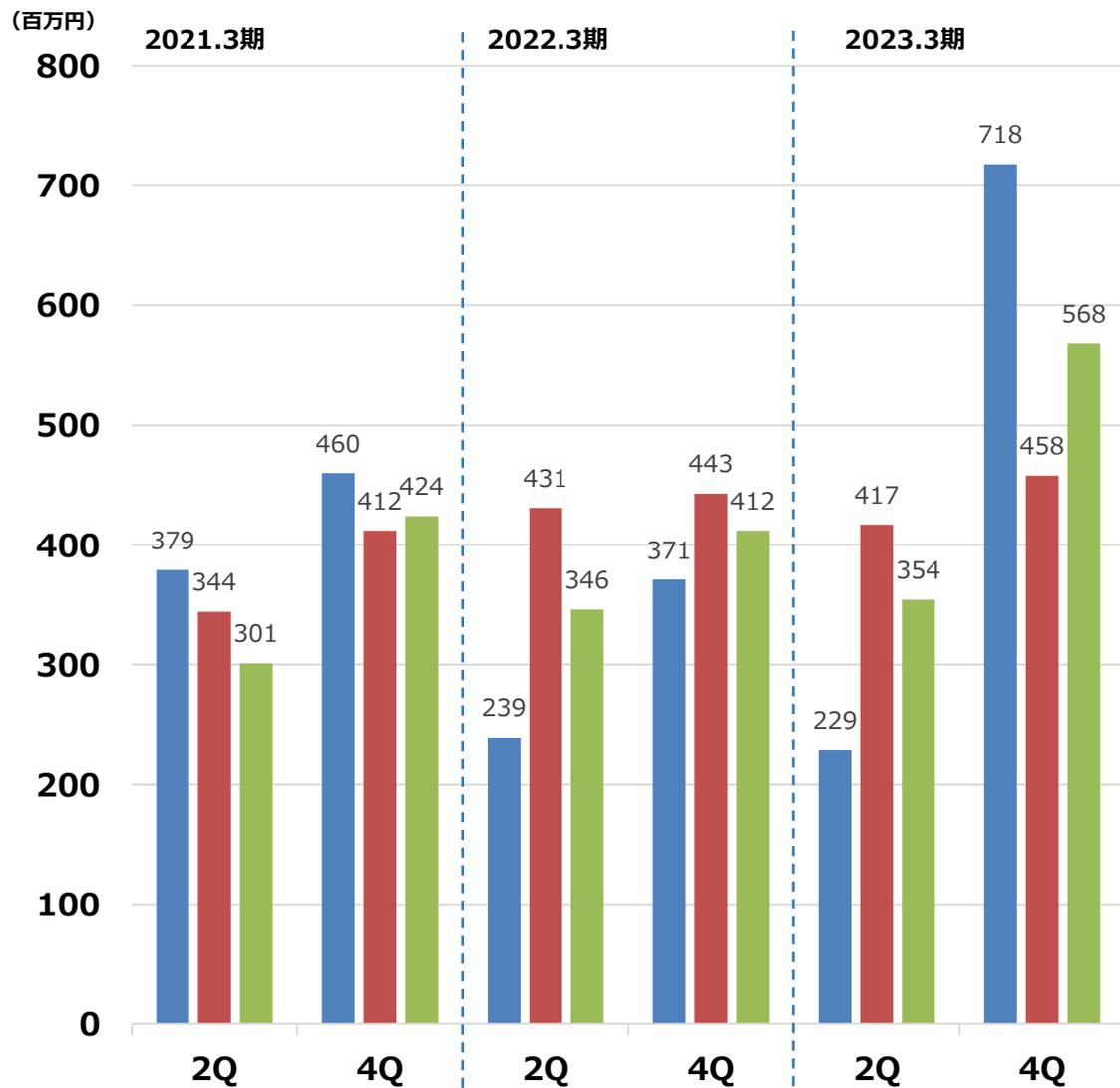
2023.3期 累計金額 (百万円)	前年差額 (百万円)	増減率 (前年比)
<b>11,988</b>	<b>1,160</b>	<b>+10.7%</b>
<b>6,416</b>	<b>932</b>	<b>+17.0%</b>
<b>5,135</b>	<b>892</b>	<b>+21.0%</b>
<b>2,012</b>	<b>▲106</b>	<b>▲5.0%</b>
<b>1,870</b>	<b>304</b>	<b>+19.4%</b>
<b>1,951</b>	<b>325</b>	<b>+20.1%</b>
<b>2,811</b>	<b>60</b>	<b>+2.2%</b>
<b>5,544</b>	<b>1,719</b>	<b>+45.0%</b>

# 10 地域別売上高

国内は半導体・液晶向けが牽引。海外では、米国の水処理向け、中国の医療機器向け、半導体・液晶向けが牽引。全地域において上場来最高額となる通期売上高を記録。



# 11 設備投資・研究開発費・減価償却費推移（半期毎）



	2023.3月期 累計金額 (百万円)	増減額 (前年比)
■ 設備投資	<b>948</b>	<b>+337</b>
■ 研究開発費	<b>875</b>	<b>+0</b>
■ 減価償却費	<b>923</b>	<b>+163</b>

## Ⅱ. 2024年3月期 業績見通し

新規連結子会社の通期業績寄与などで二桁増収、経常利益までは増益だが前期並みの特別利益無く最終利益は減益の見込み。

	2023.3期		2024.3期(予)	
	金額(百万円)	金額(百万円)	差額	増減率(前年比)
売上高	37,730	44,181	6,450	+17.1%
売上総利益 (売上総利益率)	12,923 (34.3%)	16,600 (37.6%)	3,676	+28.4%
営業利益 (営業利益率)	2,443 (6.5%)	3,920 (8.9%)	1,477	+60.5%
経常利益	3,933	4,302	368	+9.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,398	3,115	▲1,283	▲29.2%
1株当たり当期純利益	200.35円	141.79円	▲58.56円	▲29.2%
自己資本当期純利益率(ROE)	16.3%	10.4%	—	(▲5.8pt)
投下資本利益率(ROIC)	7.4%	9.3%	—	(+1.9pt)
為替レート (期中平均)	ドル	131.64円	136.00円	
	ユーロ	138.15円	143.00円	
	香港ドル	18.08円	17.40円	
	中国人民幣元	19.86円	19.70円	

### 1 売上高：10年ビジョン定量目標 連結売上高400億円 1年前倒しでの到達を見込む。

- ✓2024年3月期は新規連結子会社（イワキ香港G、イワキ上海）の売上高が通期寄与。  
※2023年3月期は2社ともに4QよりP L連結取込み。
- ✓イワキ香港Gは医療機器向け、イワキ上海は半導体・液晶向けが牽引。米国水処理も好調維持を見込む。
- ✓売上高における為替影響（前年比）は+346百万円を想定。
- ✓連結における国内、海外売上高はそれぞれ201億円、240億円を見込んでおり、海外売上比率が国内を逆転。

### 2 営業利益：増収効果や新規連結子会社の通期業績寄与により利益面は大幅増益を見込む。

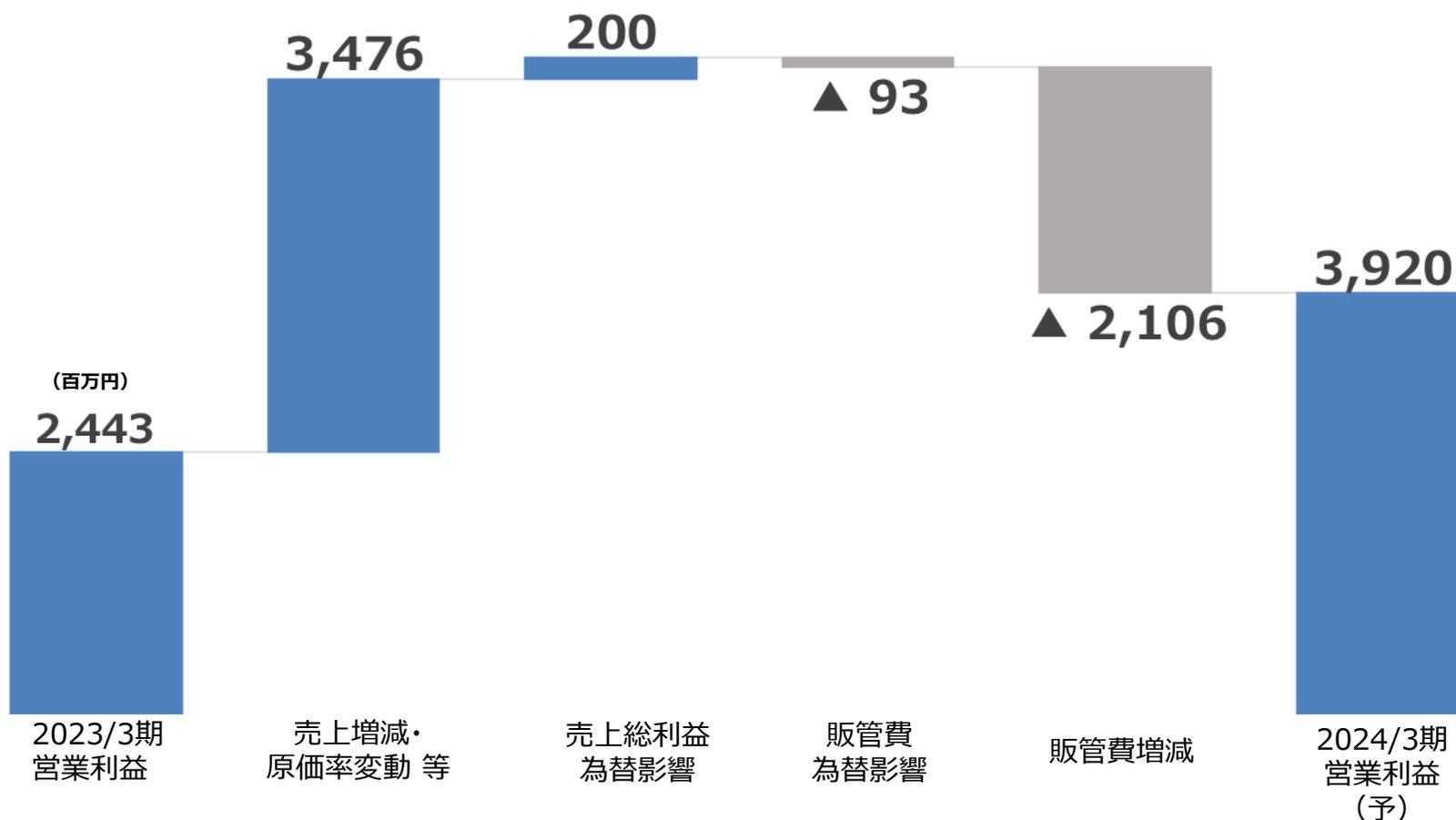
- ✓増収影響や増収に伴う原価率改善によって売上総利益は前年比+28.4%増を見込む。
- ✓営業利益段階では前年比+60.5%増を見込むも、新規連結子会社のれんの内、受注残に係る部分の償却費が2024年3月期増益の重石となることを想定。

### 3 親会社株主に帰属する当期純利益：前期同水準の営業外収益、特別利益発生無く、減益を見込む。

- ✓持分法による投資利益は台湾、韓国で保守的な見込み。
- ✓2023年3月期の受取還付金、段階取得に係る差益と同水準の営業外収益、特別利益の発生無く、最終利益は前年比▲29.2%減の見込み。

### 3 2024年3月期 業績予想 増減益分析

通期： 為替 1円当たりの感応度	USDドル	ユーロ	香港ドル	中国人民币元
売上	68百万円	34百万円	191百万円	149百万円
営業利益	21百万円	15百万円	67百万円	51百万円



2024年3月期より半導体・液晶市場を強化市場へ。

	各市場	国内	海外
強化市場	水処理市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・し尿処理、ごみ処理、一般産業廃水処理市場が堅調</li> <li>・食の安心安全、災害対策等の観点より、滅菌市場、イオン水市場、水耕土耕栽培市場が伸張</li> <li>・インバウンド需要の回復に伴い、滅菌市場、クーリングタワー市場、ボイラー市場が復調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水処理膜を利用した装置やシステムが堅調</li> <li>・環境保護関連の滅菌用途が堅調</li> </ul>
	医療機器市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場全体としては復調傾向にある</li> <li>・臨床検査装置（免疫分析装置+生化学分析装置） 昨年底迷分の回復傾向が高まるが、<b>各社とも部材調達が難航している</b></li> <li>・内視鏡洗浄装置も臨床検査装置同様回復傾向にはあるが、<b>各社とも部材調達が難航している</b></li> <li>・人工透析装置のメンテナンス需要回復・代替需要も回復基調</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場全体としては復調傾向にある</li> <li>・臨床検査装置（免疫分析装置+生化学分析装置） 回復傾向が高まるが、<b>各社とも物流の混乱や部材調達が難航している</b></li> </ul>
	新エネルギー市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セルメーカ、電池リサイクルなどで投資計画が活発</li> <li>・家庭用燃料電池は計画案件が動き出し一部需要回復</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アジアに加え、欧米で二次電池設備投資の引き合いが活発</li> </ul>
	半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該製造装置メーカー向け需要に不透明感あり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファウンドリ向けに一部設備投資の先送りによる影響が見られるものの、影響は軽微で海外全体としては堅調</li> </ul>
	化学市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高付加価値製品の開発堅調</li> <li>・石油化学では再編が続く</li> <li>・環境規制による樹脂リサイクル等による需要が増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧州・北米・アジアで二次電池材料の製造投資が活発</li> <li>・米国・アジアで半導体向け薬品製造投資が堅調</li> </ul>
	表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5G対応、デジタル投資拡大による電子部品需要が拡大傾向</li> <li>・車載用途は、自動車の挽回生産により回復基調だが<b>部品供給の完全回復には至っていない</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・車載とメタバース関連の電子デバイスの需要が拡大</li> <li>・パッケージ基板と車載向け基板の設備投資が堅調</li> </ul>

※ 赤字はネガティブな見通し

## 5 2024年3月期 市場別売上高予想

米国の水処理向け、中国の半導体・液晶、医療機器向けを中心に増収を見込む。

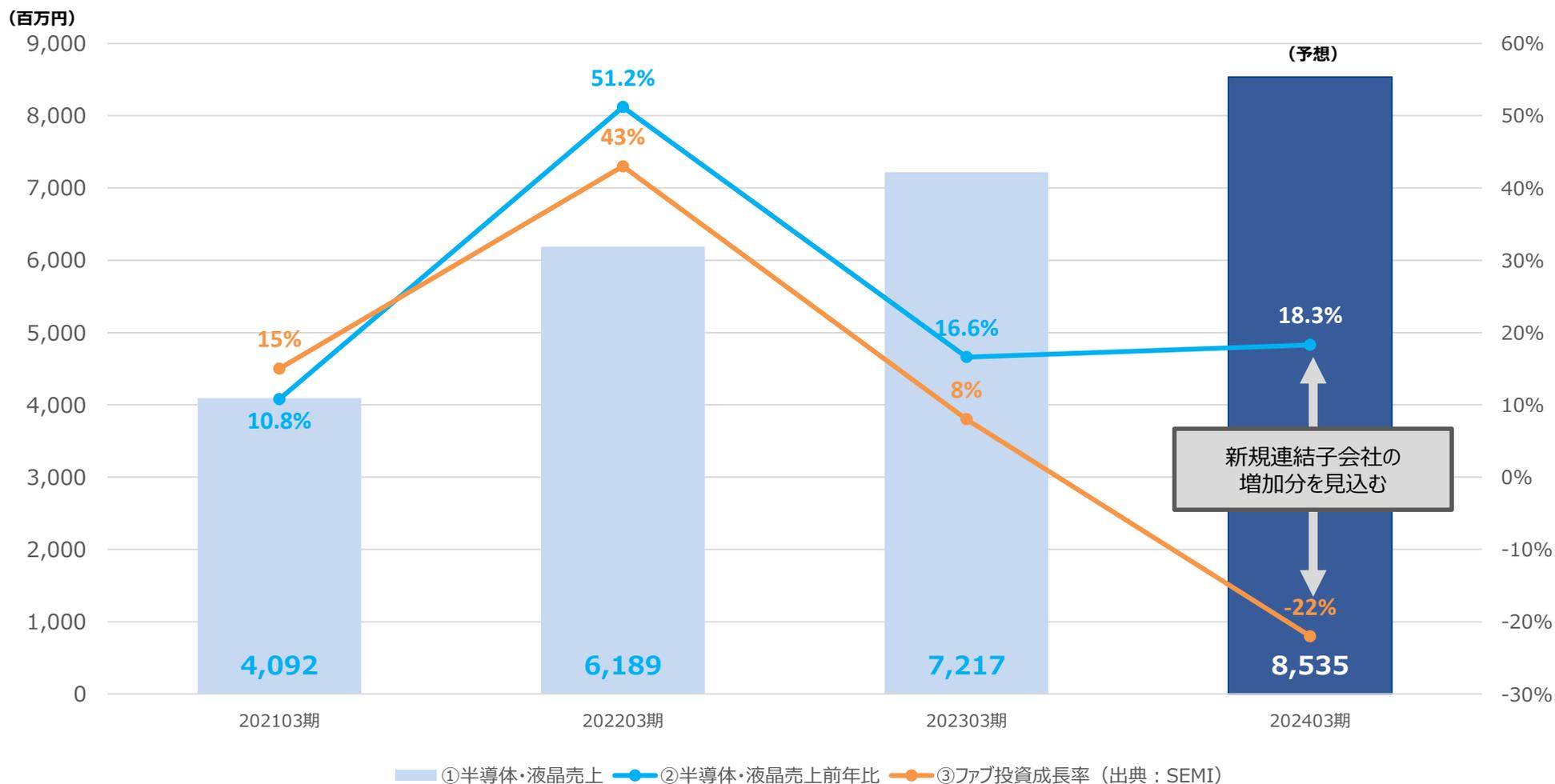
	2023.3期 実績 (百万円)	2024.3期 予想 (百万円)	差額	増減率
水処理	9,217	10,543	1,326	+14.4%
半導体・液晶	7,217	8,535	1,317	+18.3%
医療機器	5,547	6,933	1,386	+25.0%
化学	3,678	4,455	776	+21.1%
表面処理装置	2,714	3,268	554	+20.4%
新エネルギー	847	1,128	280	+33.1%
その他	8,506	9,315	809	+9.5%
合 計	37,730	44,181	6,450	+17.1%

## 6 2024年3月期 製品別売上高予想

市場別の予想を受け、関連するマグネットポンプ・定量ポンプ・空気駆動ポンプの伸長を見込む。

	2023.3期 実績 (百万円)	2024.3期 予想 (百万円)	差額	増減率
マグネットポンプ°	11,988	14,119	2,131	+17.8%
定量ポンプ°	6,416	7,894	1,478	+23.0%
空気駆動ポンプ°	5,135	6,160	1,024	+20.0%
回転容積ポンプ°	2,012	2,467	455	+22.6%
エアーポンプ°	1,870	2,444	573	+30.7%
システム製品	1,951	1,967	16	+0.8%
仕入商品	2,811	2,885	74	+2.6%
その他	5,544	6,241	696	+12.6%
合 計	37,730	44,181	6,450	+17.1%

2024年3月期より通期業績寄与となるイワキ上海を中心に海外向け売上伸長の見込み。

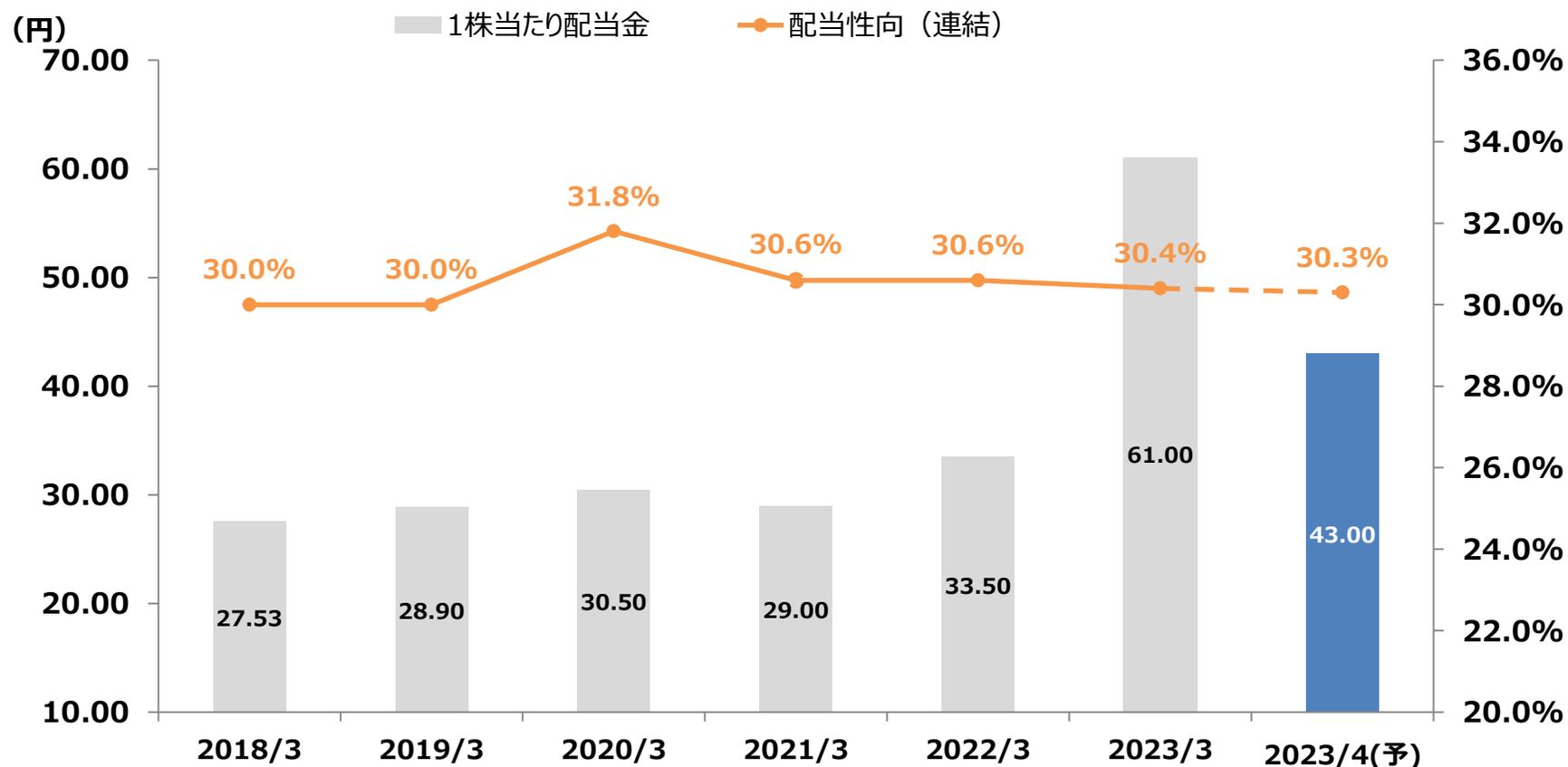


※ ③ファブ投資成長率は「2020年」データを「202103期」へ適用（「2021年」以降同様）としております。

## 基本方針

・配当性向30%超

・安定的な配当



(注) 2018/3は株式の3分割を考慮し、算定しています。(小数点第三位以下は切捨)

## Ⅲ. 収穫期 中期経営計画について

種蒔期			育成期			収穫期		
2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	2024/3期	2025/3期

連結売上高



連結営業利益率



定量目標

## 「オールイワキで世界No.1を提供する」

～ グループ一丸となり、世界No.1の製品、品質、価値、サービスを提供する ～

## 目標を達成するための姿勢「チェンジ&チャレンジ」

～ 変革と挑戦に躊躇しない企業文化の定着を目指す ～

定性目標

## 収穫期 重点テーマ

### 新たに連結子会社となった中国グループとのグループシナジーの最大化

中国グループ子会社化による連結決算上の影響は大きく、事業運営・経営管理面においても大きなインパクトがある。同グループの持続的発展のためにも、グループ全体としてのシナジー創出が求められる。また子会社化のメリットを最大限発揮し、更なるCS向上に繋げていく。

⇒**米国に次ぐ売上規模の海外グループとなり、連結上の海外売上高にも大きく貢献。更なるシナジー創出に向け、販売・生産・管理面の連携強化が今後の課題。**

### 強化市場の再定義

「半導体・液晶市場」の強化市場追加に向けた検討を行う。

これまで維持市場と定義していたが、デジタル化やDXの必要性の高まりなど、半導体を取り巻く環境は大きく変化しており、長期的な観点からも強化市場格上げへの検討が必要。

⇒**2024年3月期より「半導体・液晶市場」を維持市場から強化市場へ格上げ。**

## 収穫期 重点テーマ

### ソリューションビジネスの再定義

これまでも様々なソリューションを提供してきたが、社内には存在する技術やサービスを完全には活かしてはいないものと認識。更なる課題解決提案に向け、社内情報整理すると共に、よりお客様の「かゆいところに手が届く」よう製品・サービスの方向性を明確化し、CS向上に繋げる。

⇒「水質関連未来構想プロジェクト」発足。

### サステナビリティの観点を踏まえた次期長期ビジョンの策定

現10年ビジョン（～2025年3月期）に次ぐ、新たな長期ビジョン策定に向けプロジェクト発足。社会課題の解決による持続可能な社会の実現と持続的な企業価値向上を両立させることの重要性が高まっている中、サステナビリティの観点を踏まえた経営を推進すべく、ビジョンの検討を行う。

⇒2023年3月期作成の骨子案を基に、次期長期ビジョン案の具体的内容検討に移行。

## 現10年ビジョン ~2025年3月期

## 定量目標

連結売上高  
**400億円**連結売上高営業利益率  
**10%**

## 定性目標

「オールイワキで世界No.1を提供する」

目標を達成するための姿勢  
「チェンジ&チャレンジ」

## 「新ビジョン策定プロジェクト」

2022年4月発足

事業構想面

サステナビリティ面



課題・あり方（骨子案）

2024年3月期～ 新ビジョン検討へ

## **IV. Appendix**

**会社名**

株式会社イワキ (英文名 IWAKI CO., LTD.)

**ケミカルポンプ<sup>®</sup>の専門・総合メーカー****設立**

1956年4月10日

**代表取締役社長**

藤中 茂

**本社**

東京都千代田区神田須田町二丁目6番6号

**資本金**

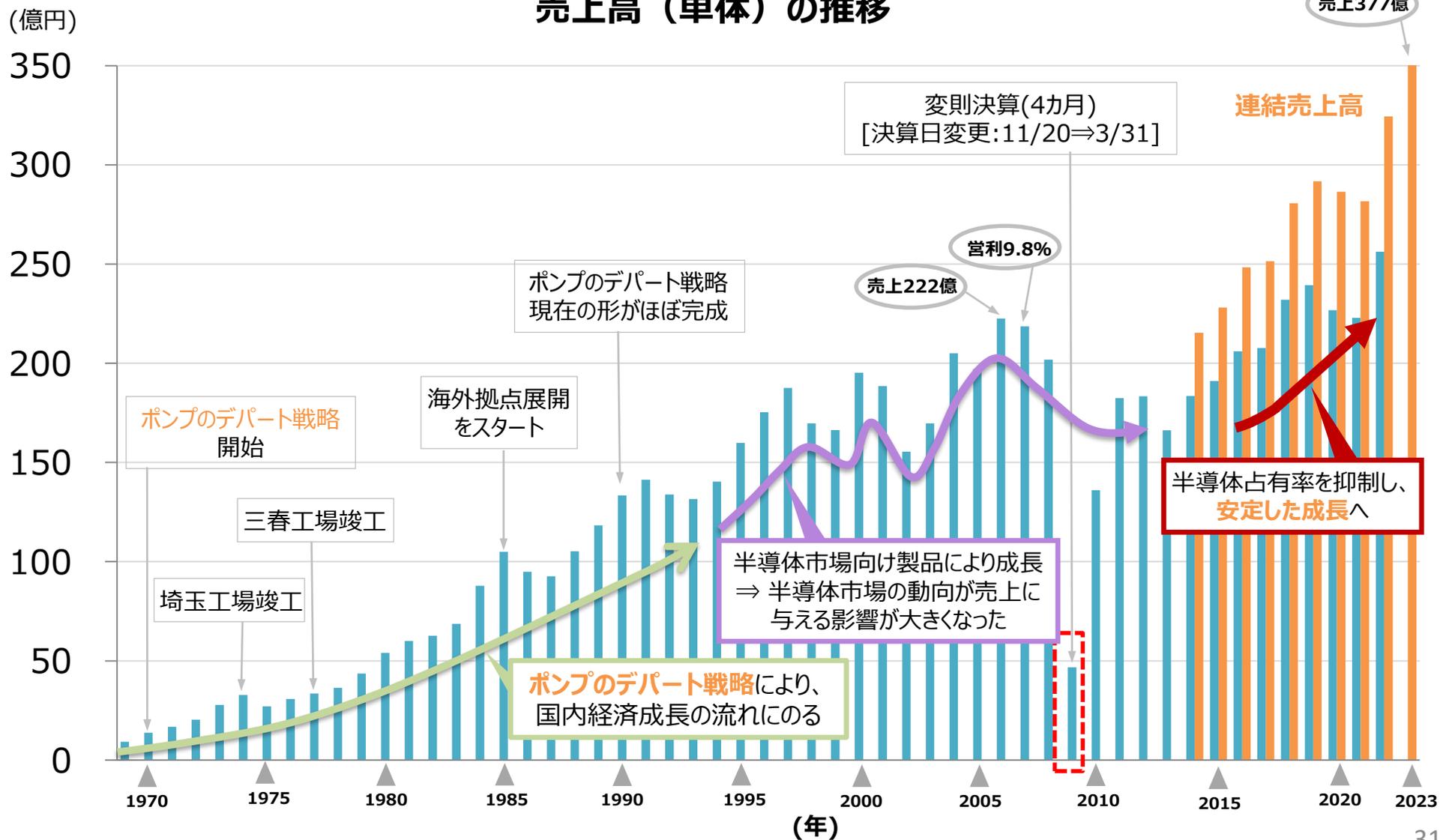
10億4,469万円 (2023年3月末現在)

**従業員数**

連 結 : 1,112人 / 単 体 : 781人 (ともに、2023年3月末現在)

**事業内容**ケミカルポンプ及びポンプ専用コントローラ等の周辺機器の  
開発・製造、仕入及び販売 等**上場取引所**東京証券取引所  
(銘柄名 : イワキポンプ / 証券コード : 6237 / 市場 : 東証プライム市場)

### 売上高（単体）の推移



## ケミカルポンプ<sup>°</sup> = 化学薬品等の薬液移送に使用されるポンプ<sup>°</sup>



水を扱うポンプとは異なり、  
ケミカルポンプは主に薬液等の移送時に使用される。  
中には(人体に有害な硫酸等)危険な液体もあるため



**非常に高い安全性**が求められる  
(漏れないこと)

1

お客様の様々な要望にお応えできる  
豊富な製品ラインナップ

2

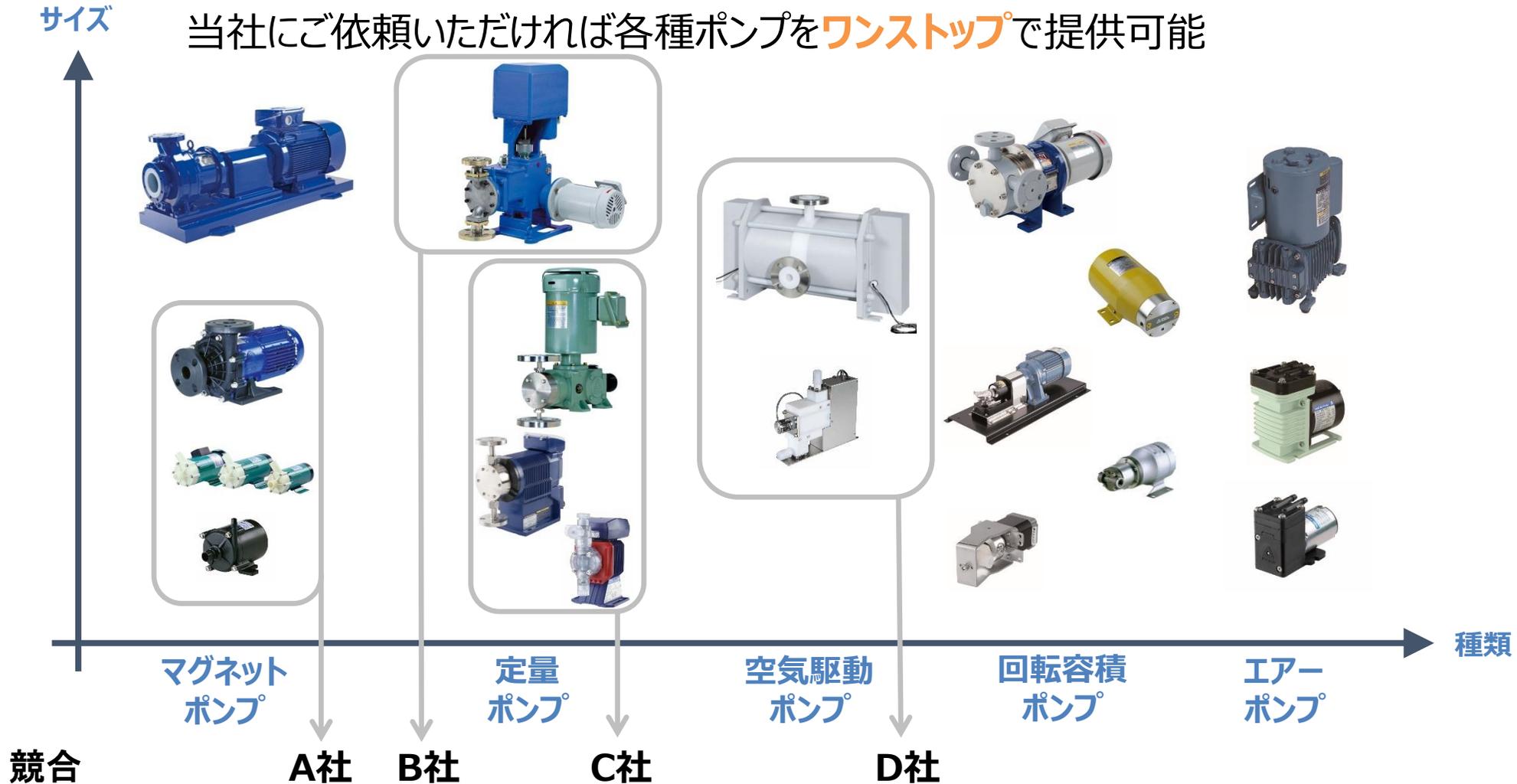
お客様への強力なサポートが可能な  
世界規模の生産・販売・サポート体制

3

製品であるポンプを中心に  
「流体を制御する」機能でソリューションも提供

# 5 当社の強み 豊富な製品ラインナップ

各種ポンプにおいて**60シリーズ以上、数万点にのぼる型式**を展開  
当社にご依頼いただければ各種ポンプを**ワンストップ**で提供可能

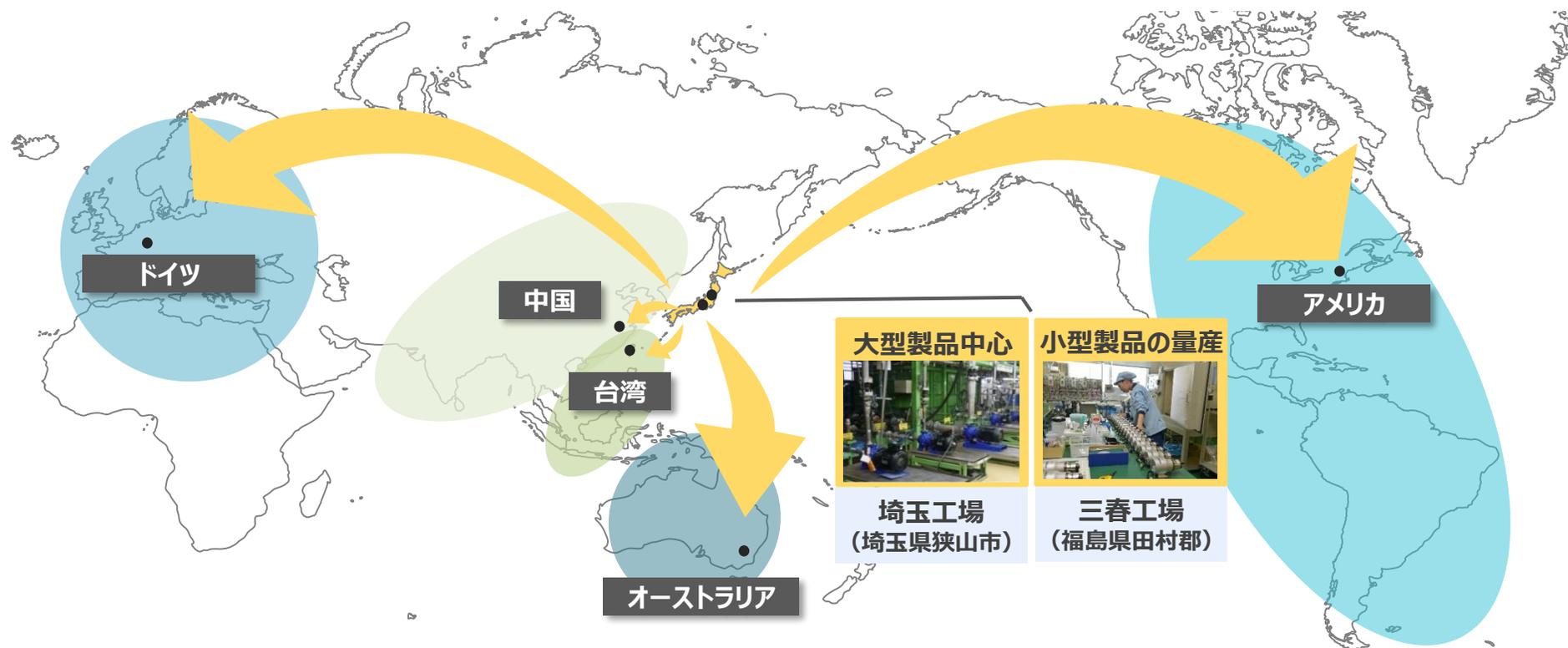


## 多品種少量生産を強みとしながら、年間約80万台の生産能力を有する

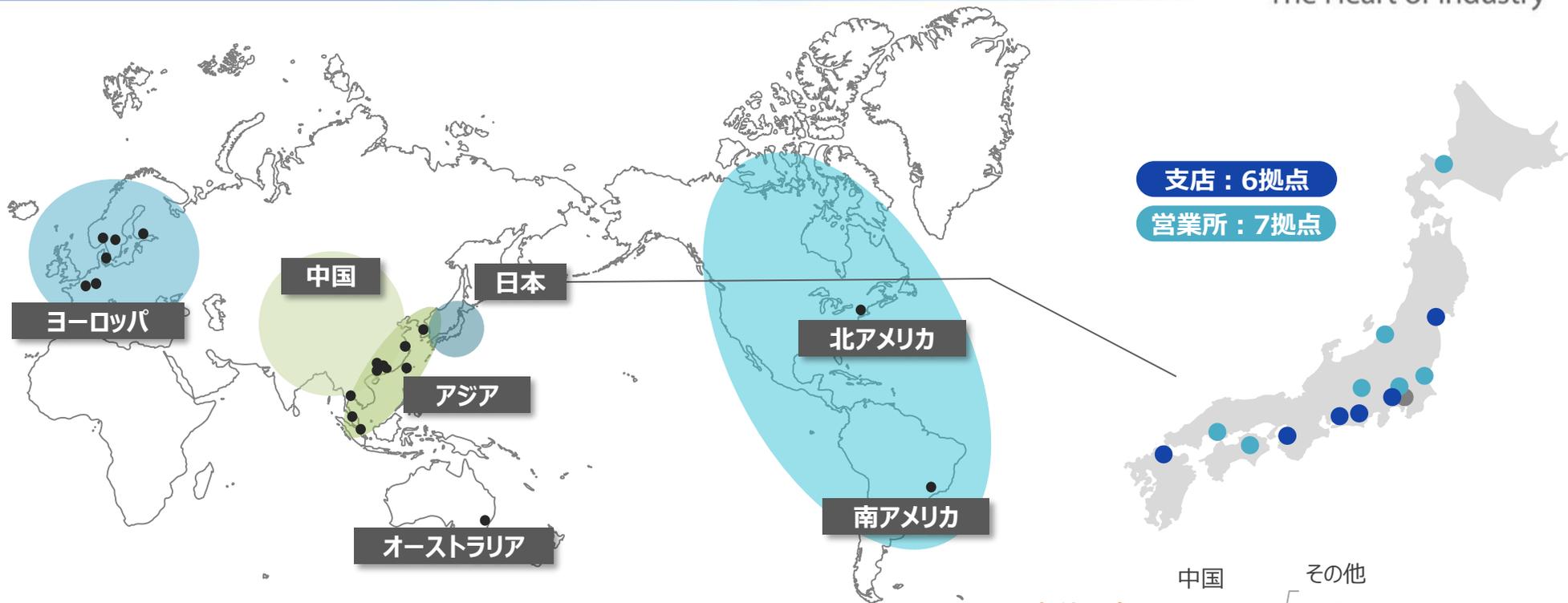
国内 … 多品種少量生産。強固な品質保証体制

海外 … 5拠点でのノックダウン生産\*により短納期・在庫効率化

(\*ノックダウン生産 … 製品の主要部品を輸出し、現地で組立する方式)

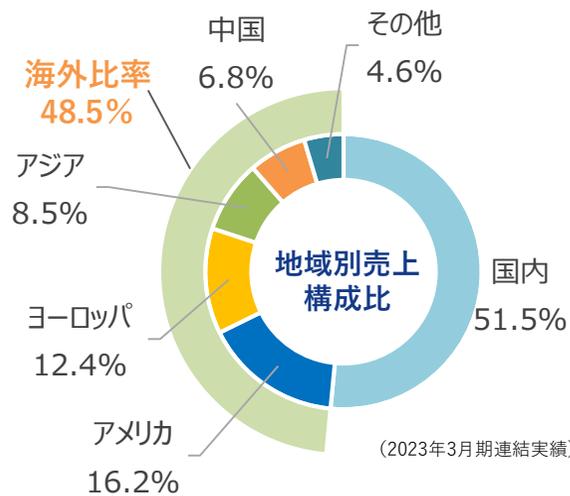


# 7 当社の強み 世界規模の販売・サポート体制



本社のほか国内主要13都市に支店・営業所を展開

15カ国21社のグループ会社で、ワールドワイドな販売・サービス網を構築



お客様の**ニーズ**にあった**ソリューション**を  
ポンプと流体制御ノウハウを活用し提供

当社



ポンプ



流体制御ノウハウ



解決して欲しい困りごと等の

ニーズ



ユーザー(お客様)

問題解決するための

ソリューション





The Heart of Industry

社会の発展と人々の幸福に寄与すべく、  
これからも常に最前線で産業を支えてまいります。

## 【お問い合わせ先】

株式会社イワキ 経営管理本部 経営管理部

E-mail : [ir@iwakipumps.jp](mailto:ir@iwakipumps.jp)

受付時間 : 9時～17時30分

(土曜・日曜・祝日・その他当社休業日を除く)

# 免責事項及び将来見通しに関する注意事項

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社イワキ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、本日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。